

1. 海辺の自然再生についてのパネル展

古川恵太（国土技術政策総合研究所）
木村尚（海辺つくり研究会）

はじめに

平成17年12月25日～27日に横浜において、横浜国際ワークショップ「東京湾の生態系の再生をめざして」が開催されました。その中で、「海辺の自然再生についてのパネル展」を行いました。

本冊子は、広く関係者のご参考に供するとともに、海辺の自然再生への取り組みやネットワーク作りが促進されることを願い、パネル展の成果をとりまとめたものです。

ねらい

海辺の自然再生は、河川や都市の再生といった取り組みと比較すると、まだまだ立ちおくれしているという現状であるということが否めません。我々の視点や取り組みの中で、一番欠けている点というのが関係者との関係のつくり方や、実際の自然再生を進めていく仕組みづくりといったものではないかと考えました。

そこで、広範な（海辺だけでない）活動、仕組み、取り組みについて、先進的、先端的な事例に学ぼうということで、北海道から九州まで、日本全国から13の事例の事例を厳選し、紹介していただくこととしました。

パネルと解説ペーパー

各事例については、各団体にアンケート形式でヒアリングを行い、活動の目的や、活動場所の特徴、活動の頻度や関係者（だれが、どんな人と、どのような関係を持って活動しているか等）について整理し、提供された図面・写真などとともに、展示パネルを作成しました。

さらに、より深い理解を得るために、各団体の方々にお集まりいただき、活動の概要を発表いただき、プレ・ワークショップを17年11月8日に東京で開催しました。その時のプレゼンテーションを元に解説ペーパーを作成し、パネル展当日、パネルとともに配布しました。

本冊子の利用について

上記のように、作成されたパネル及び解説ペーパーを取りまとめたものが、本冊子です。パネルとともにご参照いただき、「海辺の自然再生」を考えるためにご参考・ご活用いただきたいと思います。

なお、当資料の、図面・写真・解説等の著作権は、各団体に帰属します。事務局は各団体から許諾を得て本冊子を発行するものであり、引用の際には、資料元の明記とともに、必要がある場合には、当該団体の許諾を得てください。

表 - 1 本報告に収録した13事例

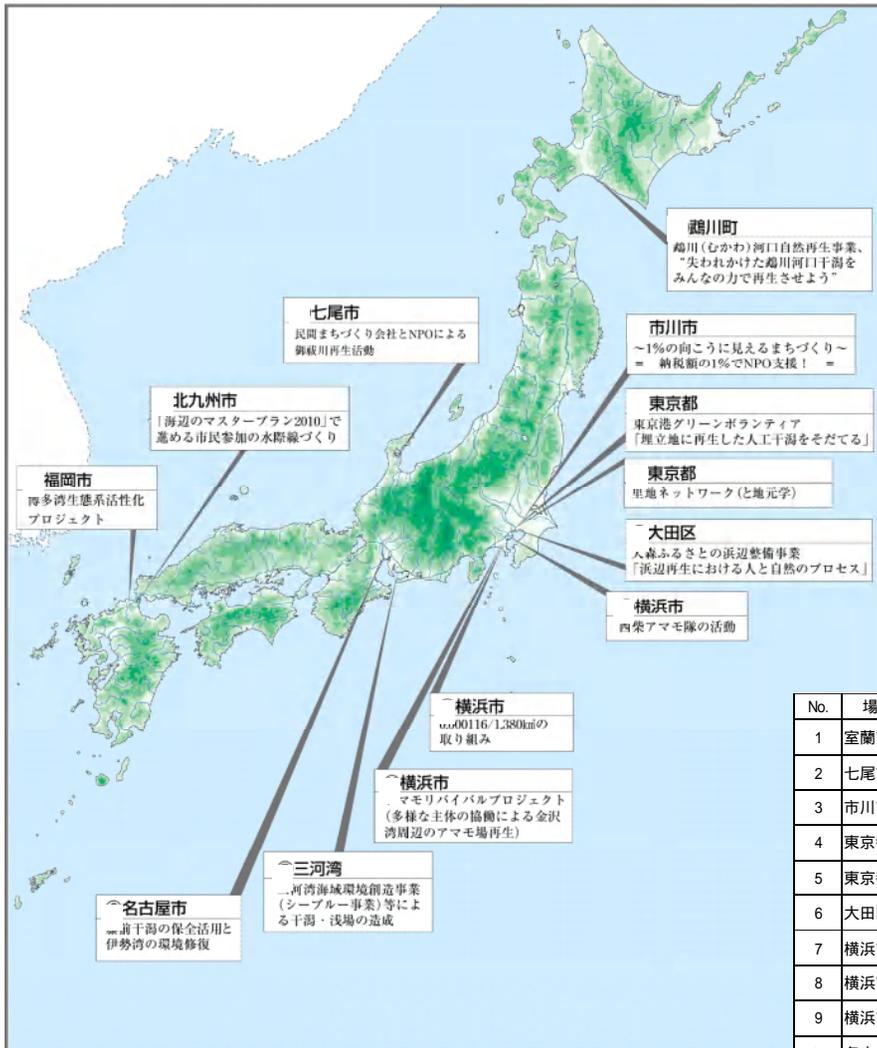
No.	場所	主体	タイトル
1	室蘭市	北海道開発局 室蘭開発建設部	鶴川(むかわ)河口自然再生事業 “失われかけた鶴川河口干潟をみんなの力で再生させよう”
2	七尾市	(株)御祓川	民間まちづくり会社とNPOによる御祓川再生活動
3	市川市	市川市 市民生活部 ボランティア・NPO活動推進課	～1%の向こうに見えるまちづくり～ ＝ 納税額の1%でNPO支援！ ＝
4	東京都	NPO東京港グリーンボランティア	東京港グリーンボランティア 「埋立地に再生した人工干潟をそだてる」
5	東京都	里地ネットワーク	里地ネットワーク（と地元学）
6	大田区	大田区役所太田東地域行政センター まちなみ整備課	大森ふるさとの浜辺整備事業 「浜辺再生における人と自然のプロセス」
7	横浜市	横浜港湾空港技術調査事務所 環境課	0.000116/1,380 km ² の取り組み
8	横浜市	横浜市立西柴小学校	西柴アマモ隊の活動
9	横浜市	金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議	アマモリバイバルプロジェクト (多様な主体の協働による金沢湾周辺のアマモ場再生)
10	名古屋市	中部地方整備局 三河港湾事務所	三河湾海域環境創造事業(シーブルー事業等)による干潟・浅場の造成
11	名古屋市	藤前干潟を守る会(伊勢三河流域ネットワーク)	藤前干潟の保全活用と伊勢湾の環境修復
12	北九州市	北九州市 港湾空港局整備部 計画課	「海辺のマスタープラン2010」を進める市民参加の水際線づくり
13	福岡市	福岡市 港湾局 環境対策部 環境対策課	博多湾生態系活性化プロジェクト

企画展示：海辺の自然再生に向けたパネル展

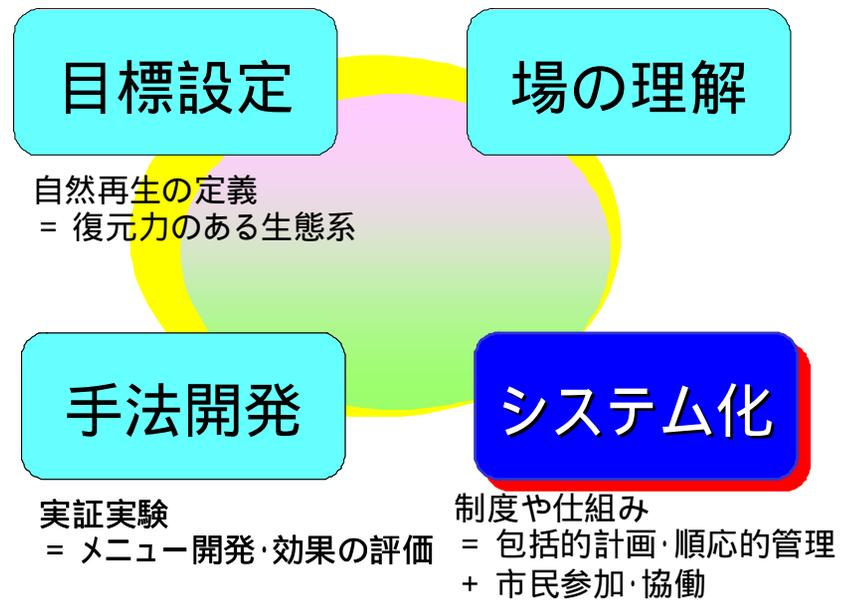
Organized Panel for Restoration of Coastal Zone Ecosystem

企画展示のねらい

このパネル展は、横浜国際ワークショップのテーマである、「東京湾の生態系の再生」のために参考となる自然再生の先端・先進事例について、学ぶべき点を判りやすく、整理・解説付きで紹介することを目的としております。そのために、再生のための活動の内容だけでなく、どのように多くの関係者とのつながりをもって、活動がなされているかという点に特にスポットを当てたいと考えております。



自然再生に向けて



No.	場所	主体	タイトル
1	室蘭市	北海道開発局 室蘭開発建設部	鶴川(むかわ)河口自然再生事業 “失われた鶴川河口干潟をみんなの力で再生させよう”
2	七尾市	(株)御祓川	民間まちづくり会社とNPOによる御祓川再生活動
3	市川市	市川市 市民生活部 ボランティア・NPO活動推進課	～1%の向こうに見えるまちづくり～ = 納税額の1%でNPO支援！ =
4	東京都	NPO東京港グリーンボランティア	東京港グリーンボランティア 「埋立地に再生した人工干潟をそだてる」
5	東京都	里地ネットワーク	里地ネットワーク(と地元学)
6	大田区	大田区役所太田東地域行政センター まちなみ整備課	大森ふるさとの浜辺整備事業 「浜辺再生における人と自然のプロセス」
7	横浜市	横浜港湾空港技術調査事務所 環境課	0.000116/1,380 km ² の取り組み
8	横浜市	横浜市立西柴小学校	西柴アマモ隊の活動
9	横浜市	金沢八景・東京湾アマモ場再生会議	アマモリバイバルプロジェクト (多様な主体の協働による金沢湾周辺のアマモ場再生)
10	名古屋市	中部地方整備局 三河湾事務所	三河湾海域環境創造事業(シブルー事業等)による干潟・浅場の造成
11	名古屋市	藤前干潟を守る会(伊勢三河流域ネットワーク)	藤前干潟の保全活用と伊勢湾の環境修復
12	北九州市	北九州市 港湾空港局整備部 計画課	「海辺のマスタープラン2010」で進める市民参加の水際線づくり
13	福岡市	福岡市 港湾局 環境対策部 環境対策課	博多湾生態系活性化プロジェクト

展示までの経緯

このパネル展で紹介されている13の事例は、海辺だけでなく、広く自然再生に対してユニークな取り組み、制度設計、関係者との連携を持った先進事例です。海辺の自然再生の活動の参考となるよう、以下の取り組みを行いました。

1. 収集事例の選定: 一般公募および事前調査により事務局が13の活動主体に参加を依頼。
2. パネルの作成: 展示の狙いに絞ったパネルの作成のため、各活動主体よりデータの提供を受け、事務局が統一的にパネルを作成。
3. 解説ペーパーの作成: 各活動の詳細について、各活動主体が集まって相互に発表・情報交換を行った結果を解説ペーパーとして取りまとめ。
4. 展示物の冊子化: 本展示パネルおよび解説ペーパーについては、冊子化し、参加者に配布。

事務局 国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部 (担当: 海洋環境研究室長 古川恵太)
(連絡先) 〒239-0826 横須賀市長瀬 3-1-1, TEL 046-844-5023, FAX 046-844-1145
(インターネット) <http://www.nilim.go.jp>

特定非営利活動法人 海辺つくり研究会 (担当: 理事 木村尚)
(連絡先) 〒220-0023 横浜市西区平沼 2-4-22 ジュネスササキ202号, TEL 045-321-8601, FAX 045-317-9072
(インターネット) <http://homepage2.nifty.com/umibeken/>

協力 財団法人港湾空間高度化環境研究センター

Secretariat National Institute for Land and Infrastructure Management, MLIT
(Contact point) 3-1-1, Nagase, Yokosuka, 239-0826, Japan Phone +81-46-844-5023, Facsimile +81-46-844-1145
(Web page) <http://www.nilim.go.jp>

NPO ‘Umibe-Tsukuri Kenkyu-kai (Research Association for Shore Environment Creation)’
(Contact point) 2-4-22-202, Hiranuma, Yokohama 220-0023, Japan Phone +81-45-321-8601, Facsimile +81-45-317-9072
(Web page) <http://homepage2.nifty.com/umibeken>

in Cooperation with Waterfront Vitalization and Environment Research Center